

「さんべで夏体験！！バウムクーヘンづくり」

1 趣 旨

- ・夏の三瓶の自然に触れながら、アウトドアクッキング等の体験を通して、三瓶地域の自然や体験活動に興味、関心を持ってもらう。
- ・親子と一緒に活動することにより、親子で活動する楽しさを知ってもらう。
- ・家族同士で関わりながら活動することにより、家族間の交流を図る。

2 事業の概要

- (1) 期 日
- ① 令和元年6月15日(土)～16日(日) <1泊2日>
 - ② 令和元年6月29日(土)～30日(日) <1泊2日>
 - ③ 令和元年7月13日(土)～14日(日) <1泊2日>
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 対 象 小学生とその家族(幼児も可)(80名を募集)
- (5) 参加者
- ① 75名(子ども42名 大人33名)(応募121名)
 - ② 68名(子ども37名 大人31名)(応募172名)
 - ③ 69名(子ども37名 大人32名)(応募100名)

(6) 日程・内容

		12:45	13:00	14:00	17:10			19:00		21:00		22:00
1日目 (土)	受付	はじまりの会	【バウムクーヘンづくり】 他の家族とも交流を深めながら、おいしいバウムクーヘンを焼き上げます。			夕べのつどい	夕食・入浴	【ファイヤーストーム体験】 キャンプファイヤーを囲み、火のついたトーチを掲げたり、みんなでゲームをしたりして交流を深めます。 ※雨天時は室内で「キャンドルのつどい」		就寝準備	就寝	
		6:30	7:00	7:40	8:40	9:00	9:30	11:50				
2日目 (日)	起床	朝のつどい・清掃	朝食・片付け	退所点検	講堂集合	【サヒメルでワクワク体験活動】 見学班と体験班に分かれて活動します。 (途中で交代) ①太陽観察と日時計作り ②葉っぱ遊びとエコバッグ作り ③アンモナイトのお話とレプリカ作り (開催日①～③によって内容が違います)			サヒメルで解散			

3 事業の特色

①プログラムデザインのポイント

「バウムクーヘンづくり」は、小中学校に限らず、高校、大学、一般団体など、幅広い年代に人気のプログラムである。バウムクーヘンは、炭を熾す係や竹を炙る係、卵を割る係や生地をこねる係など、様々な役割を必要とし、最後には全員で協力して焼き上げる。一連の工程に、仲間づくりの要素が含まれるところも、人気の要因と考えられる。

そこで、「バウムクーヘンづくり」を柱に、参加者全員で行う「ファイヤーストーム」、親子で行う「工作体験」を加え、自然の中で家族内、家族間で関わりをもつことをテーマに、事業の計画を行った。

② 運営のポイント

道具の準備や片付け、役割分担なども参加者同士で行う大切な活動の一環と考え、事前説明のスライドのわかりやすさや時間配分に工夫を凝らした。また、雨が多い時期でもあるため、野外炊飯場で安全に、余裕をもって調理できるよう、班数や活動場所の割り振りを行った他、「ファイヤーストーム」の雨天プログラムとして、「キャンドルのつどい」の準備も同時に行った。

③ 広報のポイント

通常の家族向け事業でチラシを配布する、交流の家から車で2時間以内に位置する小学校の2～4年生にチラシ配布を行った。今回はそれに加え、道の駅や公共施設など、多くの人の目に触れやすい場所にチラシを置いたり、テレビ局や新聞社に取材や掲載の依頼を行った。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	92	8	0	0
プログラム	90	10	0	0
運営	94	6	0	0
職員の対応	98	2	0	0

(2) 参加者の声

- ・ここで出会ったご家族とバウムクーヘン作りをして、大人も子供も仲良くなることができとてもよかったです。
- ・雨天でもバウムクーヘン作りができたし、キャンドルのつどいもとても楽しめました。

5 成果と課題

《成果》

- ・三瓶の自然の中で、学校団体に人気の体験活動プログラムを、多くの家族に提供することができた。宿泊や、つどいへの参加も通して、集団宿泊活動や自然体験活動を行う、本所の取組や在り方を多くの方々に知ってもらうことができた。
- ・近隣にある「島根県立三瓶自然館サヒメル」の見学や工作を取り入れたことで、互いに利用者の拡大に繋がる周知を行うことができた。本所に宿泊する団体が、夜のプログラムとして、天体観察に訪れることがあるが、日中の自然観察や施設見学、教科に関わる学習など、今後、さらに幅広い連携方法を検討していくよい機会をもつことができた。

《課題》

- ・広報について、当事業を含めたほとんどの事業で、毎回、ほぼ同じ学校の、一部の学年にチラシ配布を行っている。毎回、募集人数以上の応募数はあるが、より多くの人に本所の取組や自然体験活動の周知が行えるよう、今回も、学校以外の施設やメディアへの広報につとめた。結果として、新聞やニュース放映も行われ、多くの人に本所の事業を知ってもらう機会となった。今後の事業応募者の傾向を見て、より効果的な広報の手法を考えていきたい。



複数家族で協力し合い、バウムクーヘンを作った。初めて出会った家族同士での活動も、大変好評だった。



県立施設との連携を深める機会にもなった。



雨天変更にも柔軟に対応することができた。

(担当：企画指導専門職 武田 尚志)